

国語科学習指導案

令和7年7月16日（水）5校時 3年A組教室

授業学級 3年B組（39名）

授業者 村田 茜

- 単元名 「現代社会の状況と重ね合わせながら読む―『挨拶―原爆の写真によせて』」
- 主眼 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している
この詩を通して作者はどのようなことを伝えようとしたのか考える場面で、前後の表現をもとに使われている言葉の意味と表記の違いに着目して、表現の解釈を友と意見交換することを通して、複数の表現の解釈を組み合わせる学習問題に対する自分の考えをもつことができる。 【C（1）ウ】
- 単元の学習問題：平和の対義語は何か。
- 本時の位置（全4時間中 第2時）
前時：詩の主題を追究するために注目する表現を決め、表現の意味を考える個人追究を行った。
次時：現代社会の状況と重ねて解釈したことを基に、単元の学習問題について自分の考えをもつ。
- 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1 学習問題を確認し、見通しを基に学習課題を据える。	学習問題：この詩を通して作者はどのようなことを伝えようとしたのだろう。 ア 第7連に注目して追究を始めたけれど、まだはっきりと石垣さんが伝えたいことが見えてこない。友は、どんなメッセージがあると考えたのだろう。 イ 「安らかに」は2回出てくるが、漢字と平仮名で表したいことが違うのではないか。言葉の意味や前後の表現とのつながりに注目するとよさそうだ。	・前時の振り返りから、アのような考えをもつ生徒を指名し、学習問題に対する現時点での考えを全体で共有する。 ・イのように、言葉の意味と表記の違い、前後の表現との関係に着目している生徒の考えを取り上げて学習課題を据える。	10分
展開	2 同じ表現に注目している友と意見交換をする。 3 追究した内容を全体で共有する。	ウ 「安らか」には穏やかで平安であるという意味と共に、気楽であるや何の心配もないという意味もある。「地球が原爆を数百個所持して」とつながって考えると、原爆は変わらずあるのに、そんなに気楽でいいのかというメッセージになりそうだ。 エ Aさんは、最後の一行の「やすらか」が平仮名であることについて、印象の柔らかさから鎮魂の祈りが込められているのではないかと言っていた。被爆者には「やすらか」現代を生きる私たちには「安らか」を使って異なるメッセージを伝えていることがわかってきた。 オ Bさんは、「顔」に注目して、原爆の被害者と現在の自分たちを対比して表し、たった数年で過去のことにしてしまう恐ろしさについて考えていた。私が追究した「気楽でいいのか」というメッセージにつながりそうだ。 カ Cさんは冒頭の「あ、」に注目していたが、「明日の表情」や「安らかに」という表現と関連させて、今を生きる人々が、写真を見るまですっかり原爆のことを忘れ去っている現状を端的に表現していると言っていた。戦争を過去のものにするという点で共通しているという考えに納得した。	・同じ表現に注目している生徒同士で追究することができるようにグループを設定し、前時追究した内容を共有したり比較したりして、言葉のもつ意味の違いを共有できるように促す。 ・追究が進まない生徒には、言葉の意味を示して、どれが詩の文脈に合うか尋ねたり、前後の表現で繰り返し出てくる表現は何か問い掛けたりして、言葉に着目して自分の考えをもつことができるようにする。 ・各グループに話し合った内容を発信するよう促し、それぞれの表現について解釈したことの共通点やつながりが見えるように、掲示した模造紙に記入する。 ・複数の表現の解釈から共通する点はないか問い、共通点を見出しているカのような生徒の考えを取り上げる。 ・全体追究を通して分かったことを基に、学習問題に対する自分の考えをまとめるように促す。	10分 20分
終末	4 本時の学習のまとめをする。	キ 友の考えを聞いて、様々な「顔」の表現や「やすらか」の使い分けから、人々が戦争を過去のものにしていくことへの怒りを感じた。石垣さんは当時、平和とは言えないと考えていて、「現状に対する無関心は再び戦争を引き起こす」ことを伝えなかったのではないかな。	・キのように、複数の表現から主題を記述している生徒の考えを取り上げ、全体で共有する。 複数の表現の解釈を組み合わせる学習問題に対する自分の考えを記述している。（学習カード）	10分

令和7年度 教科研修会Ⅱに向けた授業の構想

国語科

1 国語科の研究テーマ

聞き出した相手の思いや価値観を基に、
自分の考えを形成する力を高める学習の在り方

2 研究テーマに示す力が高まっている生徒の具体の姿

- ・話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている姿 (3 学年段階)
- ・論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えを比較しながら、自分の考えをまとめている姿 (2 学年段階)
- ・必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている姿 (1 学年段階)

3 単元名・学年

「現代社会の状況と重ね合わせながら読む—『挨拶—原爆の写真によせて』」・3年

4 単元の概要（全4時間扱い 本時は第2時）

単元の学習問題

平和の対義語は何か。

単元展開

時間	学習活動
第1時	◆単元の学習の見通しをもつ ・「平和」の対義語は何か考え、「戦争がなければ平和といえるのか」や「どうあれば平和だと自分たちは考えるのか」という問いに対して自分の考えを伝え合う。 【単元の学習問題】 平和の対義語は何か。 ・制作の背景と共に詩を読み、初発の感想を交流する。 【学習問題】 この詩を通して作者はどのようなことを伝えようとしたのだろうか。 ・注目する表現を決め、現時点での学習問題に対する自分の考えを書く。
第2時 (本時)	※本時案参照
第3時	◆現代社会の状況と重ねて解釈したことを交流し、単元の学習問題に対する自分の考えをまとめる ・詩の表現と現代社会の状況とのつながりについて、考えたことを交流する。 ・今までの学習を振り返り、詩に表われている作者のものの見方・考え方と比較しながら、単元の学習問題に対する自分の考えを記述する。
第4時	◆単元の学習問題に対する考えについて対談し、最終的な自分の考えをまとめる ・前時記述した単元の学習問題に対する考えをもとに、異なる考えの友と対談を行う。 ・対談を通して得た気づきを共有し、最終的な自分の考えを記述する。